



1972年、発掘調査によって美しい壁画がみいだされ、有名になった古墳である。明日香村平田にある。径約20mにすぎないが、粘土と砂を交互に一層ずつ積みかためて築くなど飛鳥の古墳に特有の、特殊な構造を備えた終末期の古墳の一つである。造られた年代は7世紀末から8世紀初めと考えられている。石室の天井には星宿(星座)、周囲の壁には日・月、四神と従者を配し、死者が永遠の眠りにつく小宇宙を形成しており、中国思想に基づいて貴人の墓にふさわしく飾っている。

高松塚古墳応急保存対策調査会では、早急に、石室内の三方の壁と天井に描かれた壁画の調査をおこなった。壁画は、男・女の人物群像、四神、日、月、星宿である。男・女の群像は、それぞれ4人一組で、東西の壁に、男子像が南寄りに、女子像が北寄りに描かれている。四神は、南壁を除く各壁の中央部に描かれている。日輪は東壁の青龍、月輪は西壁の白虎の上にそれぞれ描かれ、星宿は天井の中央部にちりばめられる。扉石の内側には、朱雀が予想されるが、漆喰が剥離しており、わからなかった。人物像の足の位置は、龍・虎の脚先とほぼ一線をなし、人物像の高さは、およそ40cmである。

壁画は、長い年月や盗掘によって、傷つけられていた。例えば壁の漆喰に亀裂を生ずるほか、西壁上部などでは、これが原因となって漆喰が剥落している。また、天井と側壁の接合部分の一部から鉄分を含んだ水が滲みでたため、そこから下辺にかけて、赤褐色に汚れている。このため、東西両壁の男子群像と青龍の一部が、著しく不鮮明になっている。盗掘穴から流れ込んだ土砂によって埋もれた個所の漆喰は、汚れ、剥落している。また、顔料の剥落が著しい個所は、東壁女子群像の頭部と腹部、西壁男子群像の一部、青龍の尾の周辺、日輪の下辺などにみられる。このほか、玄武には、意識的に掻き落としたとみられる側壁材にまで達する打痕があり、日輪、月輪の中心部にも、金箔や銀箔を意識的に掻き取った形跡が認められる。(引用:<https://www.asukanet.gr.jp/ASUKA2/TAKAMATUTUKA/takamatutuka.html>)



0001_古墳へ続く道



0002_古墳へ続く道



0003_古墳へ続く道



0004_古墳へ続く道



0005_古墳へ続く道



0006_古墳へ続く道



0007_古墳へ続く道



0008_古墳へ続く道



0009_古墳へ続く道



0010_古墳へ続く道



0011_古墳へ続く道



0012_古墳へ続く道



0013_古墳へ続く道



0014_古墳周辺



0015_古墳周辺



0016_古墳周辺



0017_古墳周辺



0018_古墳周辺



0019_古墳周辺



0020_古墳周辺



0021_看板



0022_看板



0023_看板



0024_看板



0025_高松塚



0026_高松塚



0027_高松塚



0028_高松塚



0029_高松塚



0030_高松塚



0031_高松塚



0032_高松塚



0033_高松塚



0034_高松塚



0035_高松塚



0036_高松塚



0037_高松塚



0038_高松塚



0039_高松塚



0040_高松塚



0041_高松塚



0042_高松塚



0043_高松塚



0044_高松塚



0045_高松塚



0046_高松塚



0047_高松塚



0048_高松塚古墳



0049_高松塚古墳



0050_高松塚古墳



0051_高松塚古墳



0052_高松塚古墳



0053_高松塚古墳



0054_高松塚古墳



0055_高松塚古墳



0056_高松塚古墳



0057_高松塚古墳



0058_高松塚古墳



0059_高松塚古墳



0060_高松塚古墳



0061_高松塚古墳



0062_高松塚古墳



0063_高松塚壁画館



0064_高松塚壁画館



0065_高松塚壁画館



0066_高松塚壁画館



0067_高松塚壁画館



0068_高松塚遠景



0069_高松塚遠景



0070_高松塚遠景



0071_高松塚遠景



0072_高松塚遠景